

2021年度 自己評価チェックシートのまとめ

*◎は良くできていた ○は概ねできていた △は努力を要する

* ()内は2020年度的人数

*黒塗りは、昨年比上位解答項目(◎)より20%上昇のもの。

□で囲いは上記同様で、20%下降したもの。

単位 人

評価分類		内容	◎	○	△	
I 保育の 計画性	1	園の教育理念・教育目標の理解	○園の教育理念や教育目標を理解する	5(2)	3(6)	0(1)
		○園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う	3(2)	5(5)	0(1)	
	2	幼稚園教育要領の理解	○幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合って理解に努める	1(2)	4(4)	3(2)
	3	教育課程の編成	○園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する	4(0)	2(2)	2(6)
			○園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	3(0)	4(6)	1(2)
	4	指導計画の作成	○指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	3(2)	5(4)	0(2)
			○指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする	2(2)	5(6)	1(0)
	5	環境の構成	○安全で清潔感のある環境を構成する	3(3)	4(3)	1(2)
			○幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	4(3)	1(3)	3(2)
			○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	3(3)	2(3)	3(2)
			○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する	4(2)	3(2)	1(4)
			○楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	5(6)	3(2)	0(2)
			○幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する	4(5)	3(3)	1(1)
			○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする	4(4)	3(4)	1(0)
○園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす			4(3)	4(5)	0(0)	
○幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする			4(3)	3(5)	1(0)	
○季節の変化に応じた環境の構成をする			5(4)	3(3)	0(1)	
6	評価・反省	○異なる年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をする	5(1)	3(2)	0(5)	
		○自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う	5(3)	3(4)	0(1)	
II 保育の在り 方、幼児へ の対応	1	健康と安全への配慮	○自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす	2(3)	6(3)	0(2)
			○朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないかを確認する	8(6)	0(1)	0(1)
			○けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行う	8(4)	2(3)	0(1)
			○園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	7(6)	0(2)	1(0)
		○園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	6(5)	1(2)	1(1)	

Ⅲ 保育者としての資質と能力	2	幼児理解	○一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る	5(4)	3(3)	0(1)
			○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	5(3)	3(5)	0(0)
			○個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	4(3)	4(5)	0(0)
			○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	4(2)	4(6)	0(0)
			○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	4(6)	4(2)	0(0)
			○幼児の理解のために家庭との連携をとる	3(5)	4(1)	1(2)
			○幼児の姿を多面的に捉えるように心がける	3(2)	5(6)	0(0)
	3	指導とかかわり	○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	4(3)	4(5)	0(0)
			○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	3(5)	5(3)	0(0)
			○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	6(5)	2(3)	0(0)
			○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	4(4)	4(4)	0(0)
			○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	6(6)	2(2)	0(0)
			○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	6(8)	2(0)	0(0)
			○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	5(3)	3(3)	0(2)
			○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	6(5)	2(3)	0(0)
			○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	5(6)	3(1)	0(1)
			○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	5(6)	3(1)	0(1)
	○幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない	7(8)	1(0)	0(0)		
	4	保育者同士の協力・連携	○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける	7(7)	1(1)	0(0)
			○クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	4(6)	4(1)	0(1)
			○幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	6(6)	2(2)	0(0)
			○他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	4(1)	4(4)	0(3)
	1	専門家としての能力・姿勢・義務	○幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する	4(2)	4(6)	0(0)
			○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	3(2)	4(3)	1(3)
			○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける	3(4)	5(4)	0(0)
			○幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにする	4(5)	3(2)	1(1)
			○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	6(8)	2(0)	0(0)
			○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	3(5)	4(3)	1(0)
			○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	7(8)	1(0)	0(0)
			○園の重要書類は持ち出さない	4(8)	4(0)	0(0)
			○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	4(2)	4(5)	0(1)
	2	組織の一員とし	○教職員全員で一つのチームであることを自覚する	5(6)	3(2)	0(0)

		での在り方	○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	8(6)	2(2)	0(0)	
			○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	8(8)	2(0)	0(0)	
			○当番や役割による仕事は確実にを行う	5(3)	2(5)	1(0)	
			○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない	8(6)	0(2)	0(0)	
3	保育の楽しみ・喜び	○幼児の成長を自分の喜びと感じる	8(8)	0(0)	0(0)		
		○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる	7(7)	1(1)	0(0)		
IV 保護者への 対応	1	情報の発信と受信	○保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	4(1)	3(4)	1(3)	
			○保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	4(4)	3(3)	1(1)	
	2	守秘義務の遵守	○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う	7(7)	1(1)	0(0)	
			○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない	7(7)	1(1)	0(0)	
	3	対応上のマナー・心がまえ	○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	4(5)	4(3)	0(0)	
			○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	2(3)	5(3)	1(2)	
			○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	4(4)	3(4)	1(0)	
	4	クレームへの対応の仕方	○保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	5(6)	3(2)	0(0)	
			○クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	5(6)	3(2)	0(0)	
	V 地域の自然 や社会との かかわり	1	地域の自然・人々とのかかわり	○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	4(5)	3(3)	1(0)
				○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	0(1)	4(5)	4(2)
				○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	1(1)	2(0)	5(7)
2		小学校との連携	○小学校の教育内容について理解するよう努める	0(0)	2(1)	6(7)	
			○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	0(0)	2(3)	6(5)	
3		子育ての支援と地域への開放	○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する	0(0)	4(4)	4(4)	
	○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う		1(0)	3(4)	4(4)		
VI 研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	3(1)	5(3)	0(4)	
			○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	3(0)	5(8)	0(0)	
			○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	3(2)	5(5)	0(1)	
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	2(0)	3(3)	3(5)	
			○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	1(0)	2(3)	5(5)	
			○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	2(1)	3(2)	3(5)	
			○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	1(0)	2(4)	5(4)	
			○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	2(1)	3(3)	3(4)	
			○保護者への対応に関する研修・研究を行う	0(1)	3(2)	5(5)	

3	今日的課題に関する研修・研究	○地域社会との交流に関する研修・研究を行う	0(0)	2(2)	6(6)
		○保育者同士の協力・連携に関する研修・研究を行う	1(1)	3(3)	4(4)
		○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	2(0)	4(7)	2(1)
		○障がいのある幼児の理解と対応について研修する	2(1)	3(2)	3(5)
		○預かり保育や子育ての支援について研修する	1(1)	2(2)	5(5)
		○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	0(0)	2(1)	6(7)
		○危機管理の必要性と対応について研修する	1(1)	5(4)	2(3)

表の中にある数字は実数です。

2021年度 評価のまとめ

2022. 3. 30

今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、様々な行事や保育に関する取り組みが制限されることとなっていました。そんな見通しが定かでない中においても、先生方の真摯な取り組みと工夫が見られたことは、今までにない成果であると思います。先生方の評価の中から抜粋して掲載いたしました。

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

- ・冬休み期間に、行事・遊びの担当保育者とそれぞれに必要な計画を練り直して、計画を改めて考える機会を設けることが出来た。加えて、来年度へむけての計画も立てることが出来たので、良かったと感じる。
- ・今年度から始まった、「遊び・行事」の担当業務分担の活用も、2学期の初めごろまでなかなか活用できていなかった。運動会での反省を機に見直し、計画的に打合せをする時間を設けたことにより、2学期後半から3学期は円滑にすすんでいるように思う。

◇改善策

- ・保育計画を具体的にわかりやすく組み立てていく。そのためには、保育者間での保育内容についての話し合いの時間を増やし、教育課程の充実や共通理解をもてるようにする。

II 「保育の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

- ・生活環境が多様化し、園生活においても多様な対応が求められるように強く感じる。生活リズムについて保護者と大切さを共有し合うこと、特別に支援が必要な子への対応等、保育者同士の連携を図りながら、保護者の理解へと結び付けたい。
- ・自分のクラスの事は報告をこまめにしたり、担任同士でもよく話し合ってきたが、他のクラスの個々の詳しいことについて尋ねたり、把握しきれずに対応もそれぞれの担任に任せることが多かったように思う。全くできなかったわけではないが、もう少し他のクラスのこともしっかり理解していたかったと思いました。

◇改善策

- ・個々の保育という観点と、「チーム」でのものとを有機的に結び付けていく。園での保育活動の系統性を考え活動を行う。そのための具体的なシラバスを考えていく。

III 「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

- ・今年度は「行事」と「遊び」に担当を分けたことにより、全体での話し合いが効率的に話

し合うことが出来た。

・保育者としての自覚を持ち保育を行ってきた。何か困った時など、主任や他の保育者と話し合いアドバイスももらったりするようにした。出来なかったことが出来るようになった子どもたちの姿と一緒に喜ぶことが出来た。

・今年度は昨年度に引き続き、コロナ等の対応などが多く、学びの面で十分にできなかったことを感じる。

・現状において、いつもと同じという理由で、保育を進めることが多かったことを反省している。また、子ども一人ひとりの心を大切にしたいとの思いの中で歩みたいと考え、保育にあたってきた。

・子ども達の変化があった時だけでなく、上手にできたこと、等、良かったところも保護者に直接またはお手紙で伝えるように心がけました。

・保育者同士での子どもの様子の情報交換も、気になることがあれば共有するように心がけてきました。

◇改善策

- ・ **個人の資質の向上の内容に、保育者集団としての取り組みを反映させたい。めぐみ幼稚園としての研究・研修の課題を設定して年間を通して取り組みをすることも検討したい。**

IV 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

・大事なことは電話ではなく直接話した方がいいと改めてわかった。そして日頃から子どもたちの様子を細かく伝えていけたらよかったと思う。

・預かりなどで接するときには、多少子どもの様子を伝えたり、話をすることはあったが、例年に比べると今年は少なかったように感じる。

・例年と変わらず、しっかりと話を聞き、対応することが出来た。保育者の意見の中には、柔軟に対応していくことが大切だと感じた。

・クラスだよりを発行し、クラスの様子は伝えることができたが、個人個人となると伝えるのが少なかったように思う。

・今年度も保護者の皆様のご協力により、助けの中で園の歩みを進めることが出来た。しかし、コロナ禍において、園での子どもたちの育ちが、保護者の皆様にお伝えすることが十分にできなかったように感じる1年であり、大きな課題を感じた。

・連絡の件などは毎年の課題となってしまう、なかなか難しいです…。

・何かあった時には、すぐに伝え、迷ってしまった時には、他の保育者に相談してから、保護者に伝え対応できたように思います。

◇改善策

- ・クラスだより、めぐみの子の内容の充実と共に、個人個人に対する連絡の仕方により工夫をしていく。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

・コロナウイルス感染対策のこともあり、今年度は地域交流はできなかった。落ち着いたらまた始めていきたい。

・コロナ禍ということもあり、地域とのかかわりが希薄になっていると感じた。コロナ禍が落ち着いて時にどう関わっていくかを話し合っても良いと思った。

・なかなかか関りを持つことが出来なかった。春先は散歩によく行き、近所の方と挨拶をしたり、畑のお話をしたりすることもあったが、その後は行事が有ったり、かかわりが少なくなった。

・2021年度研究テーマ「おさんぽ」をもとに勧めてきたが、戸外でののびのびとした活動をこれからも多く取り入れていきたい。また、園庭や、園舎内でも自然を感じることを出来るものを取り入れていきたい。

・散歩時などは、地域の方と挨拶を交わしたりすることはありましたが、自分から地域の子育てに目を向けた、小学校の教育内容を調べたりすることはできませんでした。

◇改善策

- ・コロナ「後」の取り組みを考えて、今から出来ることを明らかにしておく。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

・冬に受けた研修はとても興味深く、大変良い学びになった。受ける機会が又あれば、今度は心理学的なものや、導入の仕方などを学びたい。

- ・前年度に引き続き、園外での研修の参加が少なかった。時期を見て積極的に参加していきたい。
- ・今年度もリモートでの研修であった。会場に行かなくても講義を受けることが出来るが、やはり、直接会場に行き、お話を聞くことができればと思う。
- ・園外研修だけではなく、園内研修も今後取り入れていければ良いと思う。お友だち同士のトラブルがあった時の対応、保護者の対応など。特に、次年度は新しく入る先生もいるので。
- ・コロナ対応や障がい児保育、テーマなど（実験）に沿った学びの機会を与えられた。リモートの良さを感じることが出来たが、学んだことへの保育者間での共有を深めて、保育に生かしていきたい。アレルギーや個別支援、安全について学びを続け、不備な点を改善しながら、子どもたちが安心して過ごせる園作りに生かしていきたい。

◇改善策

- ・リモートの研修であっても、出来るだけ多く役に立つものは受けることが出来るように、園の体制を整えていく。園内研修も充実させていく。（ミニ研修等、手軽にできることでの交流を進める。）

*全体を通して

- ・保育に関しては、プラスの要素が増えてきた。これは、個々の保育者の意識の変化があったからだと思う。また、より良い保育を行いたい、との思いを各自が強く持ち続けていたことが大きい。
- ・半面、地域の自然や社会との関りや、研修と研究の項目には、昨年より、低評価が多く、本年度はさらに増加した。職場の多忙化や、なかなか職員が一堂に集い会議を持つことがままならないといった物理的な要因が、研修を深めることや、新たな取り組みを進めることを阻害している。次年度は、個々の改善が求められている。
また、「小学校との連携」などにも、すぐにできること（学校への卒園児の様子を見るための訪問、普段の授業や行事の研修、また、小学の先生方の園への受け入れと相互研修、等）を取り入れることから、新たな発想を持てる機会としたい。